

# 資料 1

## 山王寺地区の取組紹介

平成 29 年 4 月 1 日

山王寺本郷棚田実行員会  
代表 高島 幹雄

### 平成 29 年度棚田保全事業について (お願い)

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は、棚田保全事業にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
平成 29 年度の事業を下記のとおり計画しました。皆様にはお忙しいこととは存じますがご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

#### 記

時期	事業内容
4 月 1 日～5 月 20 日	保全作業準備
5 月 21 日(日)8:30～12:00	棚田保全作業 草刈 代かき
5 月 28 日(日)8:30～12:00	「田んぼの学校」田植えコース 古代米 コシヒカリ さつま芋植え オーナー制度 田植え
7 月中旬	棚田保全作業 草刈
9 月 24 日(日)8:30～12:00	「田んぼの学校」稲刈りコース 稲かけ
10 月下旬	棚田保全作業 草刈
10 月 29 日(日)9:30～12:00 12:30～15:00	棚田祭り 「田んぼの学校」収穫祭 脱穀・籾摺 さつま芋堀体験

(3) 平成28年(2016年)3月2日(水曜日)

# 棚田百選・「山王寺の棚田」に看板

## 航空写真で位置関係ひと目で

農水省の「日本の棚田百選」の一つ、雲南市大東町山王寺の「山王寺の棚田」について説明する看板がこのほど、同地に設置された。

地元の山王寺本郷棚田祭り実行委員会(高島幹雄代表)が、県の中

山間ふるさと・水と土保全推進事業を活用して設けた。

看板は、縦約1・3

メートル、横約2・1メートルの大きさで、棚田は標高約300メートルの山腹に位置し、約200枚合わせて19秒が、1999年に「日本の棚田百選」

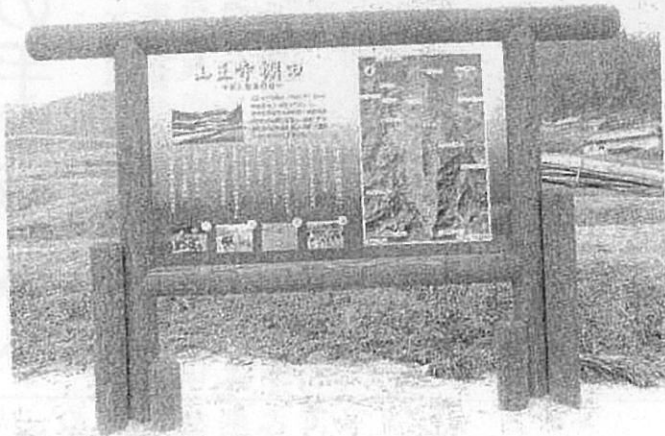
に選ばれたことなどを解説。航空写真を活用して棚田の位置関係がひと目でわかるほか、雲海が見られることなどが紹介されている。

また、「山王寺の棚田」への道しるべとなる案内看板(縦0・8メートル、横0・4メートル)も、4枚設置された。

同実行委員会では、農村や農業への理解を深めようと、田植えから収穫までを体験し田

山王寺の棚田に設けられた看板。雲南市大東町山王寺

んぼを遊びと学びの場として活用する「田んぼの学校」などを実施している。看板が設置されたことにより、棚田への理解がさらに進めばと期待している。



「田んぼを遊びと学びの場として活用する」田んぼの学校」などを実施している。看板が設置されたことにより、棚田への理解がさらに進めばと期待している。

島根日日新聞

(第三種郵便物認可)

山王寺の棚田

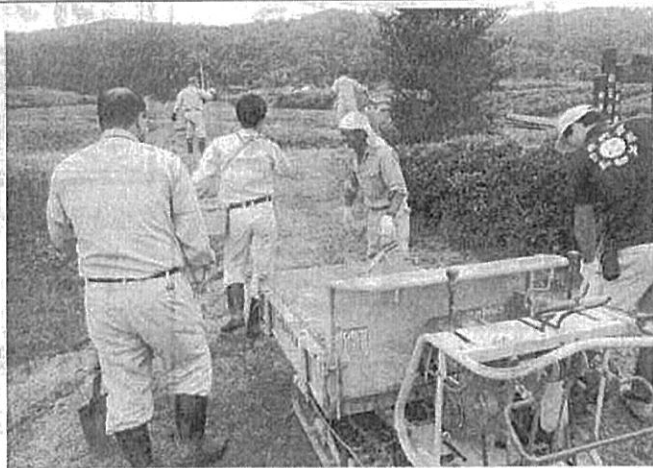
あぜに芝の種吹きつけ

草刈りの手間軽減へ

「日本の棚田百選」に選ばれている雲南市大東町山王寺の「山王寺の棚田」で、棚田保全の一環として芝の品種のセンチピードグラスで棚田の畦(あぜ)を緑化させ雑草を抑制する実証実験が行われている。6月28日、センチピードグラスの種子を畦に吹き付ける作業があった。

棚田の水田を遊びと学びの場として活用する「たんぼの学校」を主催している「山王寺本郷棚田実行委員会」(高島幹雄代表、20人)が、除草作業の軽減を図るとともに、棚田を訪れる親子連れなどに芝生の上で気持ちよく過ごしてもらおうと、県の一中山間ふるさと水と土基金事業

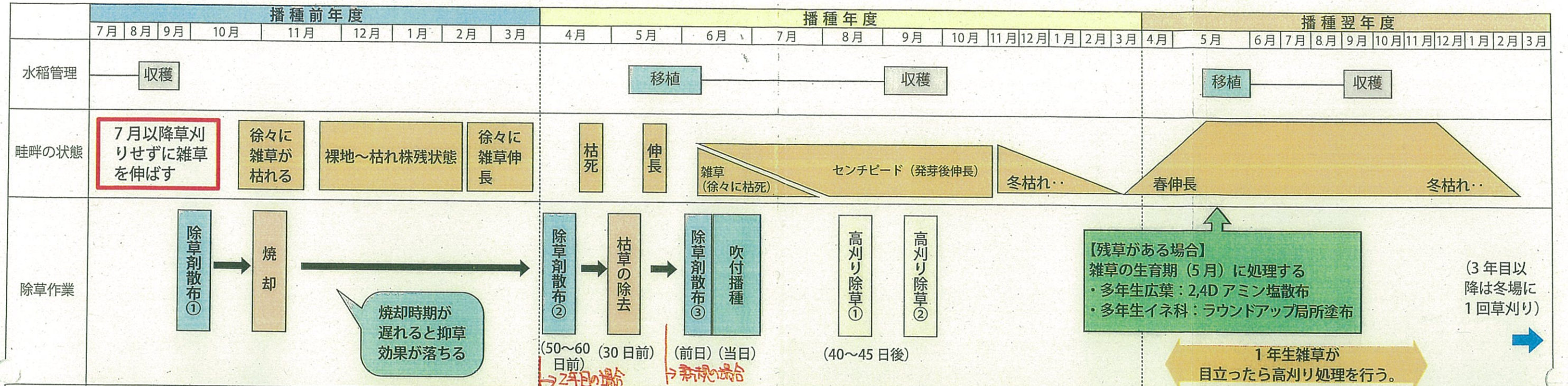
媛県。この日は同社 種子を畦などに吹き付ける作業を行った。播種した面積は、棚田展望台の周辺など1690平方



作業の様子 6月28日、雲南市大東町山王寺

う吹き付け後ののり面に砂をかけるなどの作業を行った。播種した面積は、棚田展望台の周辺など1690平方メートル。同委員会事務局を務める高木健次さんは、メンバーの高齢化で草刈りが大変になり、畦が芝生になれば作業が楽で棚田がきれいに見える、今後に期待していた。

センチピードグラスの吹きつけ播種による畦畔管理技術 (特許第 4848436 号 だるま製紙所による吹きつけ技術基準) ※大分県内部資料 (24年6月作成)



**【焼却について】**

- 焼却効果が高める(燃える材料(雑草)を増やす)ため、雑草は必ず伸ばしておくこと!

水稲収穫後(雑草が生育して)に散布する

**【除草について】**

- 除草は「多年生雑草対策」が重要(残ると播種後の管理が大変)秋の除草剤散布①と春の除草剤散布②で根絶させる。
- 除草剤はラウンドアップ(25倍)、タッチダウン(25倍)等全草種対応タイプを組合わせて使用する
- 除草剤散布①後の焼却目的は、「枯れた雑草とコケを燃やし、地面を露出させること」と「1年生雑草の種子を焼却し春の雑草発生を抑えること」
- 水稻を移植した後「除草剤③」を実施する場合は泡状の噴口を利用してイネへの飛散を防止する

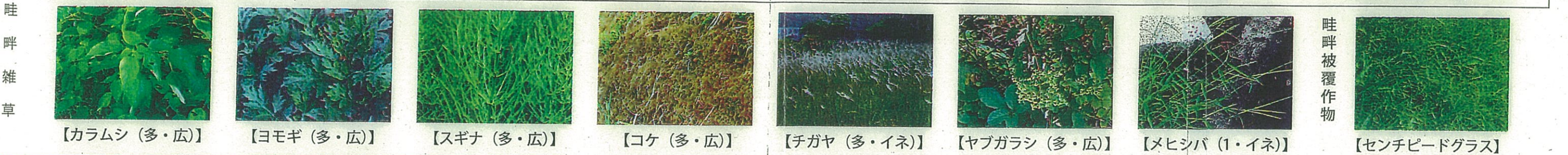
雨が続く時に播種する

**【吹きつけ播種について】**

- 播種は必ず梅雨期に実施(発芽日数は2週間程度)
- 種子流亡防止には播種時に「1年生雑草のみ草丈5cm程度生えている」状態が理想
- 播種面に凹凸が無い場合はレーキ等で筋をつけ流亡を防止する
- 播種後乾燥防止のため軽く覆土する
- アリ避け用の殺虫剤等を播種後に散粒機等で散布する

**【吹きつけ後の除草管理】**

- 雑草との競争を避け、センチピードを早期に繁茂させるため、高刈り除草を行う。1回目が一番重要。吹きつけ後40日目を目安に必ず行う。 ※センチピードは播種後2年間は刈らない。



※この技術指針は大分県農林水産部集落・水田対策室が作成されたものです。大変わかりやすいので、コピーし配布させていただいています。なお、この技術は特許第 4848436 号にて特許認可されています。この技術を使つての吹きつけ・播種は特許侵害となり賠償請求の可能性もありますのでだるま製紙所の許可無く使用できません。ご注意ください。

地域の美しい風景を守り伝えたい

# 棚田を舞台にした「田んぼの学校」で、親子連れを集落のファンに！

島根県雲南市 山王寺本郷棚田実行委員会

「日本の棚田百選」に認定された美しい景観を有する、島根県雲南市山王寺地区。過疎化・高齢化により棚田の維持管理に課題を抱えるなか、「田んぼの学校」をスタート。外から人が来ることでよい刺激となり、集落が変わり始めています。

文/佐々木 泉 撮影/多田昌弘 写真提供/山王寺本郷棚田実行委員会

## 地域の資源を生かすには、まず地域の人が動くこと

島根県松江市内から車で約20分、雲南市の北部に位置する山王寺地区の棚田に子どもたちの歓声が響きわたります。今日は「田んぼの学校」の田植えコース開催日。住民たちも張りきっています。

「こんなに子どもが集まってにぎやかになるなんて、田んぼの学校を始める前には思いもしませんでした」と語るのは、「山王寺本郷棚田実行委員会」(以下、棚田実行委員会)の委員長を務める高島幹雄さん(65)。田んぼの学校が開かれるようになってから今年で10年目を迎えます。

山王寺地区本郷は38戸の小さな集落です。標高約300メートル、南斜面に築かれた、1枚1枚、形が異なる田んぼの数は200枚以上。この棚田が平成11年、「日本の棚田百選」に認定されたのがそもそもの始まりです。

4年後に大東町(現・雲南市)が棚田に展望台を設置しましたが、「ここに展望台を造っても見に来る人がいるだろうか……」と集落の住民は思ったそ

う。それでも、せっかくできた展望台、自治会主催

で秋に棚田祭りを開くようになりました。集落の人が集まるさやかな祭りでしたが、平成18年に転機が訪れます。「水と土ネット島根」から「田んぼの学校」をやってみませんか」と提案があったのです。

「展望台のときと同じく、田んぼの学校を開いても人が来るだろうか」と正直、思いました。でも、このままならいなければ高齢化が進んで人は減り、耕作放棄地が増える一方。せっかく展望台ができたことで以前より人が来るようになったのだから、棚田を守り伝えていくためにも、とにかくやってみることにしたんです。地域の資源を生かすには、まず地域の住民が動かないとね」と高島さん。

## 棚田の四季を思う存分味わえる四つのコースを設置

田んぼの学校を実施するにあたり、中山間地域等直接支払交付金の集落協定に参加している6世帯が有志となって棚田実行委員会を結成。第1回目の田植えコースには関係者の家族を含め30人ほどが参加しました。田んぼの学校開催と同時に進めたのは休

活用し、休耕地のさらなる再生に取り組み始めています。牛の放牧やソバとエゴマの栽培、田んぼを畑にして貸し農園にすることなどを検討中です。

田んぼの学校の常連になり、「ここに暮らしたい」と4家族がすでに移住している山王寺地区。新たな仲間との地域づくりも始まっています。



(上)はだしの田植えに苦戦する親子連れ。(下左)山王寺地区の棚田展望台からの眺め。(下中)花に囲まれた看板。(下右)昨年の田んぼの学校で作ったかかし

### 棚田の自然調べコース



棚田やため池に生息しているカエルやイモリ、モエビなどの生き物たちを観察。専門の先生が教えてくれ、子どもだけでなく親も学ぶことが多い

### 田植えコース



黒米とサツマイモの苗を植える。6年前からスタートした棚田オーナー制度のオーナーたちもこの日に田植え。棚田米とみそ汁(上)のランチが大好評

## 「田んぼの学校」は四季折々のコースが充実!

### 収穫祭コース



新米で作ったおにぎりや野菜などの農産物を販売。餅つきや山王寺神楽なども行われ、収穫を祝う。最後に田んぼの学校の卒業証書を授与。みなさん、お疲れさまでした!



### 稲刈りコース



春に植えた米とサツマイモを収穫。サツマイモはその場で持ち帰り、刈り取った稲は集落の人たちで「はで干し(天日干し)」、脱穀、初すりをして収穫祭に備える

## 田んぼの学校を契機に集落に移住する人も

この日の田植えコースの参加者は70人。はだしになって田んぼに入り苗と格闘、なかには尻もちをついたり子どももいますがなんのその。泥んこになる経験も貴重です。田植えの後には炊きたての棚田米とみそ汁でランチタイム。

「このお米がおいしくて今年も来ました」と言う参加者がいるほど、棚田米は大人気。田んぼの学校がスタートしてから収穫した米は「山王寺棚田舞」というブランド名で販売を開始。また、集落では棚田の風景を保全するため、「ふるさと水と土基金」を

## 棚田が育む 米・文化・人のつながり



棚田実行委員会の高島さん(右)と錦織さん(左)は棚田で有機低農薬栽培を実践中

集落のブランド米「山王寺棚田舞」

田んぼの学校のきっかけをつくった「水と土ネット島根」の渡部明孝さん(60)



(上)県指定無形文化財の山王寺神楽。(下)棚田や水路のまわりの草刈りなどは住民総出